

事業活動実績報告書

施設名	熊野幼稚園
教育理念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	生きる力を育成するための稲作活動
2 実施期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日

3 取組概要	(取組日) 令和5年5月8日 ～ 令和5年5月8日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	代掻きをする(機械も用いて、田おこし・代掻きを行う。子どもは、周囲から見学)		
	(取組日) 令和5年5月11日 ～ 令和5年5月12日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	田植え(年中長児が田んぼにはいり田植えをする。年少児は見学)		
(取組日) 令和5年5月12日 ～ 令和5年9月12日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		
稲の世話(雑草を取り除いたり、水をたしたりする)			
(取組日) 令和5年5月12日 ～ 令和5年9月12日	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること		
稲の世話(雑草を取り除いたり、水をたしたりする)			

3 取組概要	<p>(取組日) 令和5年9月12日 ～ 令和5年9月12日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>収穫祭・稲刈(収穫に感謝し、全園児で稲刈りをする)</p>	
	<p>(取組日) 令和5年9月12日 ～ 令和5年9月12日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>稲刈(全園児で稲を刈り、刈った稲はしばらく干して乾かす)</p>	
	<p>(取組日) 令和5年10月17日 ～ 令和5年11月17日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>脱穀(全園児で、何日もかけて脱穀を行う)</p>	
	<p>(取組日) 令和5年10月17日 ～ 令和5年11月17日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>籾摺り(脱穀と並行してもみすりも行われる。自然とリズムを口ずさむ子が見られる)</p>	
	<p>(取組日) 令和5年12月5日 ～ 令和5年12月5日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>精米(精米機を用いて精米。白米とぬかにわかれることを知る)</p>	
	<p>(取組日) 令和5年12月15日 ～ 令和5年12月15日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>おむすびづくり(お米を研いで炊く。各自創意工夫したおむすびをつくる)</p>	

効果検証報告書

施設名	熊野幼稚園
教育理念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成

事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 身体 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	稲作活動
2 事業概要	生きる力を育成するための稲作活動

計画時

3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 代掻き・苗の準備は外部に依頼 田おこしから始まり、田植え、稲刈、脱穀、もみすり、その間の世話や管理は教職員が園児と共にやる
--------	---

事業後

3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ----- 稲作活動を特別なものとして単発で終わらせず、日常に結びつけていくことが重要。そのため、園内に田んぼをつくり幼児とともに教職員が興味関心を持てる環境づくりを実践している。不足している教職員の専門知識は次年度への課題となる。
-------------	---

計画時

4 事業のねらい	園内に田んぼがあり、毎日身近に触れながら観察や新たな発見ができるようにする 農耕儀礼から始まった行事(お正月・お月見・お祭り・お神輿など)の意義を知る
----------	--

事業後

4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ----- 当初のねらいに加え、自然の不思議さに気が付き探求していけるようにすすめていった。
-------------	---

5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 田植えから稲刈・脱穀・もみすりまでの稲作活動を全て手作業で行う おむすびづくりで、一連の稲作活動をしめくくる
---------	---

事業後

5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ----- 田植えでは、泥に足を取られたり、水の抵抗が重かったりする経験から、泥の不思議さに気が付き始める子が見られた。その後、稲の成長に加えて田んぼに集まる生き物を観察し観察眼を深めた。子どもたちにとって受動的な方法での教授になってしまいがちであり、能動的な「遊び」の中で自分自身で発見したり感じたりできる環境を整えることが不足していたと思われる。
-------------	--

6 環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ● 戸外遊びの時に必ず目に入る位置に田んぼがある。 ● 毎日見ている中で、大きくなっていることに気が付き自ら大きさを測ってみようとする。興味を示すまでに二数を要する子もいるが、園内に田んぼがあることで、ほぼ全員がその子なりの田んぼへの興味、かかわり方ができる。 ● アメンボ・カエルやちょうちよ、ヤゴやトンボ、バッタなどが生息し、探したり見つけた子が観察したりしている姿を見て、周囲の子もよい影響を受ける。 ● 園内の田んぼを、毎日見ていくことで、じっくり見たり班化に気付いたりする力(観察眼)を養う。 ● 稲刈・脱穀・もみすりは、すべて手作業で行う。時間を要するが、子ども同士の会話が生まれ、一定した作業のリズムが歌になって表現されることも期待できる。 ● 全てを手作業で行うことを体験し、お米の大切さを体感する。 ● 動画を撮影し、配信することで家庭での稲の話題ができるように促している。また、田植えした直後からの成長を振り返ることができる。
--------	---

事業後 6についての効果・検証	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <hr/> <p>田んぼに興味を持ち、全員が田植えから収穫、脱穀、もみすり、おむすびづくりを経験することでお米ができるまでの過程を学ぶことができる。田んぼに生息する生き物や植物に気が付く子が多くいるが、興味関心を広げることは課題となった。稲が成長していく様子を目の当たりにできているが、長さの認識をより深めることも足りていないと思われる。</p>
--------------------	---

7 期待される効果 児童の姿	<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等</p> <hr/> <p>稲が大きくなる喜びを感じ、観察眼が養われる</p>
-------------------	---

事業後 7についての効果・検証	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <hr/> <p>稲の成長を喜ぶ姿や、様々な生き物と触れ合う様子はあったが、自分自身で発見したり感じたり考えたりできる環境を整えることが充分ではなく次年度への課題となっている。</p>
--------------------	--

8 効果検証 総括	<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて</p> <hr/> <p>どろんこになりながら自分の手で田植えをし、毎日観察をしたり世話をしたりすることで、毎日食べているお米が長い月日をかけて変化し成長していくことを知ることができている。また、単調とも思われるもみすりの作業ではほのかな香りの心地よさからか、自然と子どもの口からリズムを口ずさむようすが見られ、オリジナルの～もみすりのうた～ができあがった。わらべうたのような一曲となり、自然と多くの園児に広まっていった。能動的に稲作活動を行い、様々な不思議さに気が付き探求していけるような環境づくりが課題となった。</p>
--------------	--